■100号記念号によせて

公立博物館を取り巻く状況をどう読むか

館長 海妻矩彦

（一戸町　御所野縄文博物館）

1．100号の発刊に寄せて

「岩手県立博物館だより」が記念すべき第100号を迎えることになりました。誠にめでたいことと思います。この冊子の内容はかなり高度なレベルのもので読むのが楽しみです。題材は本館が扱っている６分野から専門的にも興味あるものを選りすぐって分かり易い文章で掲載しています。これは市民・県民への広報誌としての役割を十分に果たし得るものではないでしょうか。

しかし、市民・県民の間には残念ながら、余り広く行き渡っていないようです。今後の課題と言えば、第一には「発行部数の大幅な増大」だと思います。この冊子を多くの市民・県民が自由に手に取って気に入ったら持ち帰れるよう、市民・県民が多く集まる会館、公民館、病院、ホテルなどに常時配布したいものです。発行部数の増大には予算の制約がありますが、現行の予算内でもまだ改善の余地はありましょう。第二には「年少者向けの『だより』の発行」が必要ではないかと思っています。現行の冊子は年少者には少し難し過ぎますから。

さて、この冊子のことから別のことに移りますが、今はわが国の種々の組織機関で点検評価が大流行です。当館でも事業全般を見直して事業の活性化・効率化を図ることは非常に大切なことであり、現在、そのような自己点検・評価を進めることが日本博物館協会（日博協）を通して全国的に求められています。以下、そのことについて館長としての考え方を少しだけ書いてみることにします。

2．日本博物館協会の動き

日博協は、平成15年3月に「博物館の望ましい姿…市民とともに創る新時代博物館」と題した博物館の自己点検評価の手引きともいうべき報告書を公表しています。この手引き書ができた経緯等は、一切省略しますが、21世紀に相応しい新しい市民のための博物館の姿を、点検評価を通して博物館自身の力で見出そうとするものです。

その報告書によれば、新時代の博物館の理念は「対話と連携」という言葉で表現されておりますが、要するに、従来の活動が博物館資料の収集保管とそれらの調査研究に重きを置いていたのを今後は市民のニーズに答えながら教育普及活動にも力を注いで、「市民とともに創る博物館」になろうとするものです。

わが国の社会が、生涯学習社会への移行、学校週五日制の完全実施、総合学習の導入、あるいは国際化、高度情報化、少子高齢化の進行により大きな変容を遂げつつあります。それに応じた21世紀の「新時代博物館」を日博協は３つの視点のもとに、９項目に関して各館が独自の点検・評価を行い、それぞれの館の新しい姿を自力で掴み取って欲しいと要望しているのです。

この報告書はどの部分を見ても大変重い内容ですが、書かれていること自体には私は賛成です。点検評価は気が重くなる作業ですが、実施する必要がありますし、そういう作業を経験しないと博物館の今後の発展はないと思います。

しかし、それを実施しただけで博物館活動の活性化が実現するかとなると大いに疑問であり、報告書がその点に触れていないのは私には大変不満です。感想からいうと、今日の博物館活動が低迷しているのは、博物館活動に従事している職員らの運営努力が足りないからだと、何か上から決めつけられているように思えるのです。われわれは、それに屈してはいけないと思います。

3．活動低迷の真因は何か

博物館活動の活性化のため、確かに日博協の示した自己点検評価は重要です。しかし、それだけで満足できるような活性化が実現するかどうかは甚だ疑問です。おそらく、真に活性化されるにはまだ足りないところがあると私は考えております。

それは、現在の博物館活動の低迷はどのようにして発生してきたかの原因追及が不十分であるということで、特に博物館の設置者の財政逼迫と博物館活動の低迷停滞の関係については分析が非常に不足しています。

バブル経済の崩壊からわが国経済の長期不況が起こり、それからの回復をねらって投じた政府の多額の補助金による公共事業は実を結ばず終わりました。それどころか、結局は政府にも都道府県にも共に膨大な累積債務が発生し、今は政府も地方自治体も膨大な借金を抱えた財政に苦しんでいます。博物館予算の増額どころではなくなったのです。

その当たりの分析も必要であり、それを考えに入れなければ、博物館活動の低迷の真の原因も明らかになりません。それは、わが国社会が持っている中央政府と地方自治体（都道府県）の間にある支配と被支配の基本構造の中に潜んでいます。平たく言えば、地方自治体が真の地方自治権を持てないことに原因があると考えています。

しかし、これを詳しく述べるゆとりはもうないので別の機会に譲ります。私は、昨年入会した日本ミュージアム・マネジメント学会の学会誌にこのことについて触れた論説の「地方の博物館の使命」を投稿しました。採択されるかどうかはまだ不明ですが、是非採択されるよう努力するつもりです。